

(様式3)

## 自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「家庭的な環境と地域住民との交流の下で、その人の地域生活継続を支援します。 また、個性を尊重し、なじみの関係を築きながら穏やかで元気ある生活を提供します。」</p>	<p>昨年度より、「地域生活の継続」を意識し理念を変更いたしました。スタッフ間にかなり浸透してきた感があります。今後さらにスタッフ全員に意識づけを徹底していき、地域生活の継続支援なじみの関係を築いていきます。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>ホーム内及びスタッフルームに理念を掲示し、常に理念実現に向けての意識向上を図っています。対応に行き詰った時は、理念を振り返るようにしています。 また、職員全員が理念を暗唱できます。</p>	<p>常に理念を意識すること、理念を振り返るように携帯用のケースに理念を入れて全職員が常に携帯しています。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>理念に基づいたサービスが提供できているかをスタッフは常に振り返り、ご家族の面会時や、地域住民と触れ合う機会、運営推進会議等で説明させていただいたり、「ホームだより」を活用してご理解いただけるよう努めています。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>ホームの立地上、気軽に散歩することが難しい。近隣に店舗もなく、外出して商店街の人々との触れ合いもできない立地条件です。</p>	<p>近隣の方との日常的な付き合い・交流についてはホーム立地条件上、かなり難しい面があるが、難しい中でどのように近隣との関わりを持つ手段を考えていくかが重要であると認識しています。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>近隣の小学校からの訪問(交流会)、小学校の音楽会や運動会への招待を受けています。また、地域の夏祭りへの参加等、地元の人々との交流機会の確保に努めています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	地域のボランティアの受け入れ等を行っている が、まだまだ十分とは言えない。		ボランティアの受け入れ、地域住民を対象とした 認知症を理解いただく機会、実習生の受け入れ 等、今後さらに積極的に行っていきたいと考 えています。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 第三者評価を実施する意義を理解し、評価 を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び第三者評価を受けることにより、現 在提供しているサービスを振り返る機会であり、 また今後のサービスの質の向上に繋げることの意 味を運営者をはじめスタッフ全員が認識できてい ます。		今後もさらに管理者はじめ職員全員が「評価」の 意義や評価後の活用方法を真摯に受け止め、ホー ムの質の向上や職員の意識改革に繋げていきま す。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこの意見をサー ビス向上に活かしている	事業者側が一方向的に会議を進行するのではなく、 参加委員に忌憚のない意見をいただき、サービ スの質の向上に繋げています。会議で出された提案 等はできるだけ早い段階で実現や改善するよう努 めています。		
9 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以 外にも行き来する機会をつくり、市町とと もにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業運営のうえで問題点・疑問点は必ず発生します。 その都度関係市町とともに考え相談しています。 必要あれば市役所へ出向き協議し、よりよいホーム作 りを市町とともに目指しています。運営推進会議に市 町村担当課職員に出席いただいております。現状を把握し ていただいたり、相談できるよい機会でもあります。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援してい る	管理者等の一部職員は、制度の理解ができてい るが全職員が制度について学ぶ機会の確保はできて いない。 現在、成年後見人制度を利用されている利用者が 入居されており、考える機会や学ぶ機会はそれ を通じて確保しやすい環境である。		全職員が順次学べるように勉強会や外部の研修 に、積極的に参加させるよう努めています。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	職員は、虐待が起こらないよう注意を払って業務 にあたっており、管理者は職員や入居者の様子を 随時観察しています。ただ高齢者虐待防止関連法 に関して職員全員が学ぶ機会は今のところ確保で きていません。		高齢者虐待に関する外部研修へ職員を出席させ、 残りの職員への伝達講習を企画しています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員は利用者の日々の行動や表情を観察し、言いたいことや不満がありそうな時は職員からさりげなく声かけするようにしています。ただ、外部者へ表せる手段が現在のところ限られており今後の課題です。</p>	<p>運営推進会議には利用者代表者に出席いただいておりますが、全ての利用者が外部へ苦情や不満を表せる機会づくりが必要です。平成20年10月より三田市より「介護相談員派遣事業」を受けており、少しでも利用者の声が外部に反映できる一つの機会であると考えています。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ご家族の面会時には時間をかけて日々の様子を報告しています。ただ面会の少ないご家族には十分な説明ができていない面もある為今後の課題です。</p>	<p>金銭出納状況の報告は、年1回個別に文書で報告しています。また、必要時は面会の機会に随時報告しています。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時、スタッフから一方的に話しかけるのではなくご家族の感想や希望が言い易い雰囲気作りを意識しています。また必要時は外部の機関に苦情や意見を表すことが出来る旨、入居時や入居後も伝えています。確認した苦情等は即、管理者はじめスタッフ間で協議し、サービス提供に反映させるよう努めています。</p>	<p>ホーム内に、外部の苦情申し立て機関の掲示をしています。併設施設の中央ホールに「ご意見箱」も設置しており、実際に投函されて活用されているご家族様もおられます。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>開設者、管理者は現場職員が思いや意見を遠慮なく言える雰囲気作りを心がけています。運営方針や職員採用時等には事前に相談し現場の意見を反映させるよう努めています。風通しのよい職場です。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員は常勤・非常勤・看護師資格保持者等、人数的に余裕を持った体制です。これにより利用者の状態やホームの状況により柔軟な対応ができています。緊急時には管理者はじめ近隣職員による応援体制の確保もできています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	理念にもあるように「馴染みの関係」をモットーとしています。やむを得ず職員交代や退職がある場合には、十分な引継ぎ期間をとり利用者にも与える影響を最小限に抑えるように配慮しています。		常勤職員が定年になった場合も状況に応じてパートで雇用延長する場合があります。新規採用よりも雇用延長することで、なじみの関係を継続することを大切にしています。
<b>5.人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修やトレーニング機会は十分確保できています。外部研修への参加も昨年度より積極的に取り組んでいます。		認知症介護実践者研修に関しては毎年1名ずつ参加させています。その他の外部研修も、さらに積極的に参加させます。
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成20年3月より市内の全グループホームによる連絡協議会を立ちあげました。各ホームのホーム長や管理者が集まり意見交換や個々のホームの問題点等を話し合っています。このネットワークを通じてホームの質の向上へ繋げるよう努力しています。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者・管理者は、日頃職員が思っていることを自然に打ち明けられる雰囲気作りを意識し、ゆっくり個々に応じた対応でストレス軽減できるよう努めています。また、スタッフルームも和室で畳とし、休憩時は利用者から離れ一息つけるよう配慮しています。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	介護支援専門員や介護福祉士資格取得等に向けた支援を心がけ、取得後は資格を活かすことができるよう本人と相談しながら業務内容を検討しています。また、職員が新しい発想を出してくれたり、日々の努力の成果に対し、職員を「褒めること・感謝すること」を忘れず、職員の意欲向上を図っています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者と共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	地域密着の視点だけでなく、「家族とともに…」をモットーにしています。外出イベント時などもご家族にも声をかけ、一緒に付き添っていただいたりしています。		普段の暮らしぶりを、ご家族にさらにきめ細かく伝えることが必要です。ささいな事でも伝えることでご家族との信頼関係を築き、「ともに支えていく」という共感を職員とご家族がもっていただければと思います。
29 利用者との関係のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は、利用者のご家族の架け橋と共通認識しています。あくまで職員は裏方にまわる意識で、利用者のご家族の関係が入居することにより疎遠にならないよう、また疎遠がちな場合は、修復に向けてさりげなく関わりをもつようにしています。		入居されることにより疎遠になられるご家族もあります。少しでも入居前の関係を保っていただけるよう、正月には入居者からご家族に年賀状を出していただいたり工夫しています。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に会いに出かけたり、来て頂いたり積極的に行っていません。例えば、ホーム入居後も馴染みのかかりつけ医へ通院していただく例もありますが、今後はさらに今までの生活の継続支援を心がけます。		数名の利用者は手紙のやりとりやTEL、外出等されていますが一部のみであり、ホームとして入居前の生活の継続支援を強化し、その為の外出支援や、友人等にホームへお越しいただくなどの配慮に努めます。
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	どうしても人間関係の良し悪しや、性格上孤立されがちな利用者はいらっしゃいます。職員が個々の性格や人間関係をしっかり把握し、その人が持つ個性をうまく活用していただきながら利用者同士の関係がうまくいくよう配慮しています。		
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	過去の退去例は、状態悪化による医療機関転院や介護施設入所がほとんどです。例えば併設医療機関や併設介護施設へ入院・入所された場合は、その後もスタッフが面会に行ったりご家族と利用者の状態等の話をしたり継続した付き合いをしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活の中で、利用者の表情や言葉、言語の強弱等を敏感に感じ取るようにし、何がしたいのか、何を思っているのか汲み取るよう努めています。把握が困難な利用者の場合は、本人の立場に立って気持ちを考えたり、ご家族や関係者から利用者の情報を聞き取ることにより少しでも利用者の気持ちが把握できるよう努めています。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>今までどのような環境でどのような人生を過ごしてこられたかを、利用者本人・地域関係者・家族・担当ケアマネジャー等から把握しています。強引に聞き出すことはせず、少しずつ・ゆっくりを心がけ、利用者のプライバシーに配慮することも忘れていません。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>基本は、一人ひとりの生活リズムを把握することです。例えば、個々の排泄時間や排泄量の把握や食事量のチェックなどで健康状態を見極めたり、その方の有する能力を最大限に生かした生活援助、例えばできないと決め付けずに「できるかな？」の視点で援助にあたっています。</p>	
<b>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>一方的にホーム側職員が介護計画を作成するのではなく「画一的で機械的にならないように」、利用者や家族や関係者からの希望も必ず取り入れています。職員全員の意見も取り入れたうえで、利用者の為の利用者本意の介護計画作成を常に意識しています。</p>	<p>昨年度の第三者評価で、もっと家族の意向を取り入れるように...とのアドバイスをいただきました。それ以後、今まで以上にご家族のご意見を聞かせていただく時間を確保し、介護計画に反映させるようしています。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に介護計画の見直しをしています。また、利用者の状態変化や精神的变化等見られた場合はその都度すみやかに、ご家族にもしながらその時の状態に即した介護計画のたてなおしをしています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の些細な事も介護記録に記載し、介護計画の見直し等に活用できるよう取り組んでいます。申し送り事項もノートに記載し、出勤時に必ず全員が目を通すよう統一し、情報を共有できるようにしています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の個々の状況に応じて柔軟に対応するよう心がけています。介護保険内のサービス提供以外でも、事業所独自の取り組みについて今後さらに力を入れていきたいと考えています。		平凡なサービス提供で終わらず、色々な発想を出して我がホーム独自の取り組みやサービス内容を考えて、積極的に提供していくよう努めています。
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源の活用は利用者の生活の質の向上の為に重要です。ボランティアや民生委員との連携はしていますが、率直に言うとまだまだ不十分な感が否めません。現在、ボランティア受け入れの回数を増やすことを検討中です。		今後は今以上に積極的に、さらに幅広く公的機関等との繋がりを図っていきます。
41	他のサービスの活用支援  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在のところ、積極的な取り組みは行えていません。		利用者の生活をより総合的に支援する為、介護保険外のインフォーマルサービスも含め、積極的に他事業所等と連携を図っていきます。
42	地域包括支援センターとの協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ地域包括支援センターとの具体的な協働は行えていません。		現在のところ地域包括支援センターとの関わりを必要とする困難事例等はありません。運営推進会議も市町村職員に出席いただいております。地域包括支援センターと関係を密にもつ機会づくりが必要であると認識しています。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関だけでなく、在宅中からのかかりつけ医に現在も通院や検査入院されている方もいます。入居前のかかりつけ医との信頼関係ができていれば入居後も通院継続することにより利用者も安心感を持たれます。		
44 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	同法人内の近隣医療機関に精神科の医師がおり、いつでも気軽に相談ができる体制です。また同法人内に認知症疾患センターもあり、職員が専門的知識を習得する機会や利用者の認知症に関する相談ができる体制も充実しています。		
45 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤で看護師を配置しています。さらに協力医療機関が併設病院で、担当看護師が毎日ホームを訪問して利用者とコミュニケーションを取りながら健康状態の把握をしてくれています。毎日訪問してもらうことで人間関係も良好です。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合は、主治医やケースワーカーと連絡を密にとり、状態把握や退院目処について連携を図っています。適宜情報は家族へも提供しています。日頃から、地域の急性期病院の担当者とは連携が図れており、ホームと医療機関との関係も良好です。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期については「前もってできるだけ早い段階で」を心がけて主治医や家族と相談していく方針です。利用者や家族の意思を尊重しつつ、ホームで「できること・できないこと」をしっかりと説明したうえで、今後どうするかの方角性を主治医・家族・ホーム職員等で考えています。		「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、ご家族に説明させていただいています。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者・家族の意思を尊重することを第一と考えていますが、ホームで「できること・できないこと」をご家族にゆっくり時間をかけて説明しています。協力医療機関の医師も月に何度かホームにお越しいただき、日々の状態把握に努めていただいております。少しでも状態変化があれば観察を強化し、家族へ連絡をとり急変時や重度化に向けた体制をとるよう努めています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止  利用者が自宅やグループホームから別の 居所へ移り住む際、家族及び本人に関わる ケア関係者間で十分な話し合いや情報交換 を行い、住み替えによるダメージを防ぐこ とに努めている	利用者や家族の精神的不安やダメージを最小限に するよう、移られる先への情報提供を密にしてい ます。入院される場合や介護施設へ入所される 場合など、ホームでの生活の継続性を絶たないよ うにホームでの生活リズムや支援方法などきめ細 やかな伝達をプライバシーに配慮しつつ提供して います。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	職員採用時には、守秘義務や個人情報保護の徹底 を図っています。また業務中は管理者やリーダー が常に職員に目を配り、何気ない一言や行動がプ ライバシーを損ねていないか注意しています。 常に「目立たずさりげなく」を心がけ、個々に応 じた対応をするよう配慮しています。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  利用者が思いや希望を表せるように働き かけたり、わかる力に合わせた説明を行 い、自分で決めたり納得しながら暮らせる ように支援をしている	「さりげなく自然に」利用者と接し、利用者が何を 考えているのか、何をしたいのか察知するようにして います。こちらが指図したり決めるのではなく、あく まで利用者が「こうしたい こうする」という気持 ちを優先することを基本としており、職員がさりげな く自己決定できる場面作りをサポートするよう心がけ ています。		
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	ホームとして大まかな一日の流れはありますが、 それにとらわれずに、あくまでその人のリズムや 都合で過ごして頂くことを第一としています。た だ現状は買い物や外出など職員側が行き先を決め ていることが多く今後の改善課題です。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	その日の服装をさりげなく褒めたり、衣服に乱れがあ ればさりげなく直してあげること、化粧をされる場合 も上手にできるようお膳立てをしています。 理美容に関しては、ホームに訪問理美容に来ていた っており、それ故にそれに頼ってしまう面があり、外 出して利用者の望む店へ行けていないのが現状です。		ホームに来ていただいている訪問理美容だけでな く、利用者が希望する地域の店へ行けるよう支援 していきます。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在のところ、食材選びや献立作りは利用者とともに行っていません。 食材の盛り付け、配膳等を利用者に役割り分担をして行っていただいています。		献立作りから食材調達までの一連の流れをホームの都合ではなく利用者主体で行うことが月のうち数回でも実現できればと考えていますが、ホーム立地条件等でなかなか困難な状況です。今後の大きな課題と認識しています。
55 利用者の嗜好の支援  利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者一人一人の嗜好については、職員が把握しています。例えば飴やヤクルトなど本人管理が出来ない場合はスタッフ預かりとし、本人の訴え時にお渡ししたり、職員がタイミングをみてお渡ししています。嗜好品を取り入れることにより利用者の精神的安定を図り、ホーム生活がスムーズにいくよう意識して取り組んでいます。		
56 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄記録をとっています。それをもとにパターン把握し、その方にあった時間誘導や誘導方法を行っています。また、時間だけにとらわれず、個々の表情などのサインを把握し、見逃さないよう全職員徹底しています。極力トイレでの排泄を基本とし、おしめは基本的に極力使用しない事を第一に介護計画もたてています。		
57 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々に合わせた入浴回数で対応できています。週3回のかたもあれば毎日入浴される方もいます。希望時や必要時は随時入浴いただける体制です。		入浴時間をホーム側の都合で概ね決めていきます。利用者の入りたい時間に対応できることが理想です。今後少しでも柔軟な対応ができればと考えています。
58 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中に運動量を確保し夜間の安眠に繋がるよう努めています。眠剤を服用されて安眠されている方もいます。夜間寝付けず興奮される方は、職員がゆっくり話を聞いたり、読書などで心を落ち着けていただき安眠いただけるよう焦らずゆっくり対応するよう心がけています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの楽しみや特技を見出し、それを普段の生活の中で活かしていただけるようスタッフがさりげなく支援するよう取り組んでいます。それがその方の生きがいになるようにという思いでスタッフ全員が取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の能力に応じた対応はしていますが、基本的にはホームでの預かり管理としています。利用者の中にはご自分で金銭を管理されており、そのことにより社会的感覚を失わないことや、安心感に繋がっています。		
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望にそっての支援はできていません。立地条件的にも気軽に戸外へ出掛けることは難しく、月に数回の外出の機会も、スタッフの意向で決めてしまっているところは否めません。		利用者の希望で行き先を決めるよう努めたいと考えています。「今度はあそこへ行きたい」、「今日はここへ行きたい」などの利用者の声を反映させなければいけないと認識しています。
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	実現できるよう努力していますが、なかなか援助できていません。		一人ひとりの思いや願いをかなえられるよう、ご家族にもご協力をあおぎ、少しずつ改善していきます。
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームに公衆電話は設置していません。必要時はホームの電話を使用いただいています。手紙は数名の利用者が書かれて知人や家族と通信されています。ホームとしては利用者が知人や家族と疎遠にならないように努めています。		人目を気にしないで電話の利用ができたりすることが望ましいことではありますが、現状はなかなか対応困難です。
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	できるだけ自然な形で出迎え、気軽に訪問できる雰囲気づくりを目指しています。お越しいただいたときは、お茶やおやつなどを出してゆっくりくつろいでいただけるようにしています。		少しずつではありますが、中古ソファや中古の椅子等をホーム内に設置しています。アットホームな雰囲気作りを目指しています。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者はじめ全ての職員が「禁止の対象となる具体的な行為」を認識しています。現在具体的な事例はありません。ケアにあたる時に少しでも疑問があれば管理者含め、職員全員で禁止行為にあたるかどうか協議しています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は24時間とおして一切鍵はかけていません。玄関先はタッチ式の自動ドアにしています。利用者が外へ出ようとした時は、制止するのではなくさりげなく声かけをし、いっしょに外へ出て散歩したり花壇を眺めたりしています。		玄関のタッチ式自動ドアは利用者の安全性を第一に優先し設置していますが、日中はなるべく自動ドアをOFFする時間帯を作るようにしています。
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	「さりげなく・自然に」を心がけています。スタッフルームから居室全てが見渡せない難点があります。定期的また随時見回りはしていますが、ハード面のため改良することは難しい点です。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの能力に応じて対応しています。包丁はスタッフルーム管理ですが、はさみ等は個々の能力に応じて個人で管理されている方もいらっしゃいます。全て一律にスタッフ側が管理してしまう事は、利用者の楽しみや能力を奪ってしまうことに繋がることを認識して取り組んでいます。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクマネジメントについては日頃から朝の申し送り等で情報共有し職員の意識向上に努めています。また、併設施設の「医療安全委員会」へ出席し職員の事故への認識を高め、ヒヤリハットレポートの提出や、その情報の共有を職員間でし、同じ事故やヒヤリハット事例の繰り返しが無いような体制作りをしています。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	残念ながら、ホーム職員の定期的な訓練等は行えていません。現状は、併設医療機関があるため、併設病院の医師や看護師に頼っています。年2回の防災訓練は行っていますが利用者の急変等に対する応急手当の訓練は行えていません。		今後は、現体制の見直しをして専門職からアドバイスを聞いたり、定期的に訓練を取り入れていくよう検討します。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防避難訓練を行い、避難訓練や消火設備の使用方法等を職員に周知しています。また消火器やスプリンクラー等の定期メンテナンスや避難経路の整理整頓もしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	個々のリスクについては、入居時や入居後も随時ご家族に丁寧に説明をし、ご理解いただくよう努めています。 リスクがあるからといって、行動を抑制することはせず、あくまでのびのびとした生活をモットーとしています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、併設協力病院の看護師がホームへ来てくれます。また、ホーム職員もバイタルだけでなく利用者の表情や仕草などで少しでも「いつもと違うかな？」と感じたときは、その日の勤務スタッフと情報を共有し、夜勤者へ申し送りを確実にしています。		
74	服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとの「薬品名・効能」を一覧シートにして、全職員が簡単に把握できるようにしています。 また、センター方式を活用し、かかりつけ医や薬品名を個々のシートに記載しています。		併設医療機関の薬剤師が月に2回ホームを訪問し服薬指導を行ってもらっています。
75	便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維を取り入れた食事について併設介護施設の管理栄養士に相談しています。基本的には薬に頼らず、生活の中で自然に運動量を確保して便秘の予防に努めています。		
76	口腔内の清潔保持  口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の能力や状態にもよりますが、ご自分で歯磨きをされる方、自分からされない方は自然に声かけて職員が見守りしています。義歯の方は職員がブラッシングと洗浄剤にて洗浄しています。		
77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎日個々に記録しています。職員全員が共有できるようにしています。 摂取量が少ないときは、スタッフがさりげなく必要量を摂取いただけるよう支援しています。		必要時は、併設介護施設の管理栄養士や協力医療機関の看護師に相談してアドバイスを受けています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止対策マニュアルを配置し、各感染症に対する対策に努めています。 ホーム内各場所にペーパータオルを設置したり、インフルエンザ予防接種も職員・入居者ともに積極的に摂取し感染予防・衛生管理に努めています。		月1回併設施設の「感染対策防止委員会」に出席し、職員の知識向上に努めています。
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や台所周りは職員で取り決めて定期的または随時、衛生管理に努めています。 冷蔵庫の中も、期限切れのものがいないかの確認や掃除など必ず行うよう徹底できています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム庭周りにプランターや花壇の設置、利用者がくつろいだり庭で食事ができるテーブルを設置しています。また、玄関内側は緑の観葉植物を置いています。 親しみやすく優しい雰囲気意識して玄関周りの工夫に取り組んでいます。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音、光、におい等を常に敏感に意識し、利用者の五感刺激の配慮を心がけています。利用者が不快な気持ちにならないようカーテンで光の調節、空調も適度に自然の風を入れるなど随時状況をみて対応しています。 ホーム内の装飾も、その時々季節感あるものに変えています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペース、ソファ設置等しています。 利用者の人間関係に配慮しながら、気のあった方同士がゆっくり落ち着いて過ごせる空間作りです。 また、中古ソファやテーブル等を購入し、ホール中央ではなく少し人目の届きにくい場所に設置し、一人になれたり気の合う方同士が、ゆっくり語り合える場所も確保しています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ入居時や入居後も馴染みの家具や物の持込を依頼しています。 ただ実際は、ホームで準備したものを中心に居室作りをされる方が多いです。数名の方は、馴染みのテーブルや椅子、家族の写真など持込されています。		まだまだ馴染みの家具等の持ち込みについては不十分と思います。今後はさらに積極的にご家族にはたらきかけをし、馴染みのものでその人らしい生活の継続支援をしていきます。
84 換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房に頼りすぎず、自然の風を取り入れることを基本としています。 職員の感覚ではなく、利用者の感じる視点で空調管理をしています。常に勤務スタッフが温度に気を配り随時窓を開けたりへの対応を個々にしています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すりの設置は完備しています。利用者個々の身体条件にあった視点での環境整備は不十分と思われます。		手すりなどは、ホーム開設時のものでその後改修や個々の高さにあった対応などの工夫ができていません。 現実的にかなり難しい問題ではありますが、一人一人にあった生活環境整備を心がけます。
86 わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員が一人ひとりの「わかる力」「わかりにくい力」をまず見極めるよう努めています。この方は何が分かりにくいのか、どう工夫すれば分かるのかを常に考え、物の配置や表示方法を考えています。		
87 建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	玄関先のベンチ・庭のテーブルの設置、玄関先のプランターや野菜畑など、ホーム外での活動資源を確保して生き生きと活気ある生活を理念のとおり実現しています。		

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)